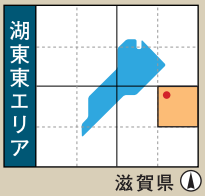
名勝
国指定

西明寺本坊庭園

さい みょう じ ほん ぼう てい えん

甲良町池寺　昭和62年1月24日指定



湖東三山の一つ西明寺は、山号を「龍應山」といい、別名を「池寺」というように、もとは水神の宿る聖地として崇められていました。池を中心とした庭園には、仏を模した数多くの石が配され、庭全体が仏世界を表す曼陀羅となっています。

当時のできごと	
834年	令義解を施行
1571年	信長が延暦寺を焼き討つ
1624年	天海、秀忠の命により寛永寺創建



庭園全景

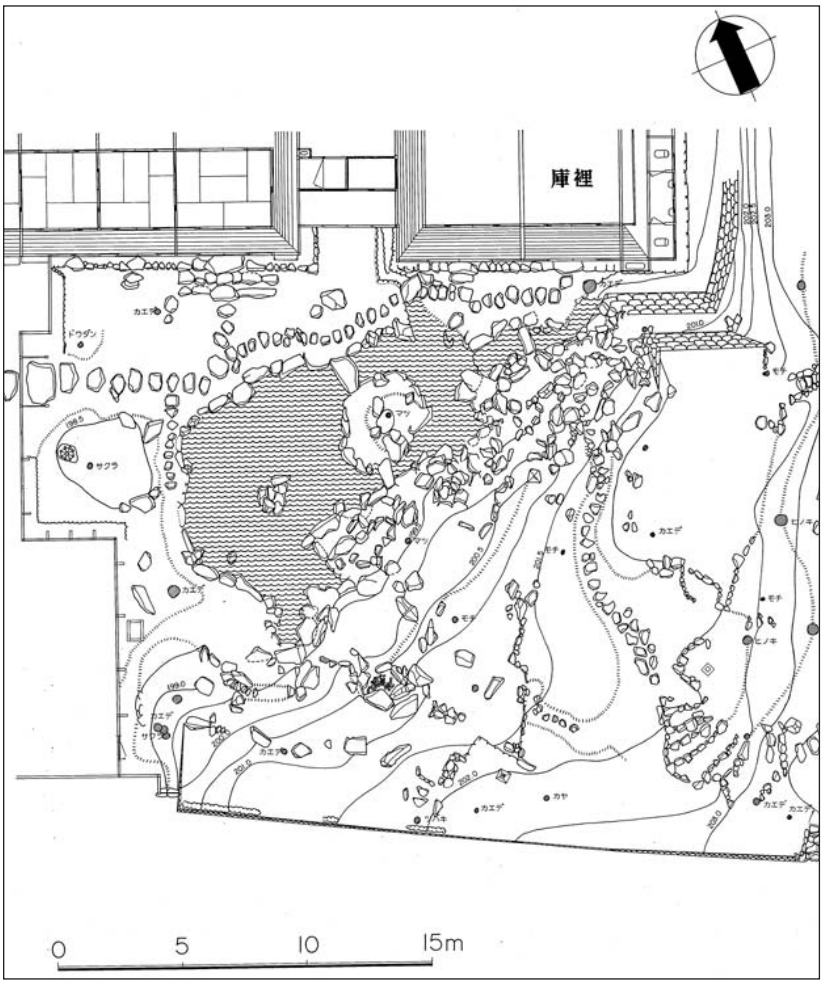
西明寺について

寺伝によれば西明寺は、伊吹山寺を開いた僧三修（学習シートNo.059）により、承和元年（834）に、仁明天皇の勅願により開基されたといわれています。中世には、17の仏堂と、300の僧坊があり、寺領2000石の大寺院として栄えました。元亀2年（1571）織田信長の焼き討ちに遭いますが、幸い本堂、三重の塔、二天門は難を逃れることができ、現在に伝わります。江戸時代に入り、天海僧正の献言により幕府の庇護を受け、寺観が整えられます。本坊に残る庭園は、この頃に整備されたと考えられます。

西明寺は、「龍應山」の山号が示すように、竜神信仰の聖地として周辺の人々の信仰を集めており、近年に到るまで旱（ひでり）の際に、雨乞いの祈願が行われていました。



西明寺本堂より三重塔を見る



西明寺庭園実測図



岩島



築山より庭を見る

庭園の概要

庭は、本坊書院の前庭として造られた池泉鑑賞式の庭園です。書院の東にある本堂から続く斜面を築山とし、中心に「心字池」が掘られています。池の中心には中島と岩島の2島があります。中島が亀島を、岩島が鶴を表し、いわゆる蓬莱庭園の形式をとります。一方築山には、西明寺の御本尊薬師如来、日光菩薩、月光菩薩、眷属（けんぞく）の十二神将を表す石を配し、刈り込みを瑞雲とし、全体が仏の世界（曼陀羅）を表現しています。庭の作者は、西明寺の復興に尽くした甲賀郡の望月友閑で、小堀遠州の庭を参考に造ったと伝えられています。

関連する文化財

西明寺の建造物	本堂は鎌倉時代前期に前身があり、室町時代前期頃に今の姿に改築された。三重塔は本堂よりやや新しく、内部は極彩色の仏画により装飾されている。共に国宝
絹本著色十二天像 （重文）（西明寺）	十二天像は鎌倉時代末頃の作品で、元は屏風仕立てであった物を掛幅としている。数少ない十二天像として貴重

もっと深く知りたい

甲良町教育委員会　☎0749-38-3315　犬上郡甲良町大字在士353-1



西明寺本坊庭園へのアクセス　JR琵琶湖線　彦根駅下車
名神高速道路　彦根インターまたは八日市インター

【参考文献】〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会　〔滋賀の美 庭〕京都新聞社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月